

富良野市教育委員会だより

ZEROふらの

発行：富良野市教育委員会
住所：富良野市若松町5番10号
電話：0167-39-2320
FAX：0167-23-3528
Email：kyouiku-ka@city.furano.hokaido.jp

R3年度 教育委員の思い

宮本鎮栄 委員

「教えるとは、ともに希望を語ること 学ぶとは、誠実を胸に刻むこと」

(フランスの詩人、ルイ・アラゴン「ストラスブール大学の歌」より)

詩人アラゴンは1943年ストラスブール大学の数百名の教授学生がナチスに銃殺、逮捕されたことを題材に「ストラスブール大学の歌」を書きました。標題の言葉はその一節です。

ストラスブール大学は戦火を逃れてフランス中部に大学を移し、生と死が隣り合わせの中、大学を続けました。そこではまさに教えることが「希望」を語ることでした。

学校教育であれ社会教育であれ、教育評価の絶対的基準は「誠実さ」にあります。試練を伴いながら、どこまで真剣に取り組んだか、真面目に為すべきことをしたか、思いやりをもって他者とふれあえたか、にあります。その成果が、出来ないことが出来るようになる、分からなかったことが分かるようになる、他人の喜びを自分の喜びとする、ということで、それが生徒の充実感、自己肯定感、「希望」につながります。学ぶ喜びはここにあります。

そして、その喜びを児童生徒とともにわかちあい、君たちには成長と進歩の可能性があるという「希望」を語るのが先生をはじめ教育関係者です。たとえ、きれいごとと揶揄されようと、教育に関わる者が求め続けなければならないことがあります。そして、「誠実さ」をもってその実現をめざすことがまた、「希望」であり、夢だと思えます。アラゴンのこの一節は、教育の本質、人間モラルの根本を語っています。そうして、社会の中で、「自分は希望を語っているだろうか」、「誠実であったらうか」と自分自身に厳しく返ってきます。(痛いところでもあります。)

渡邊啓子 委員

いつも富良野の子どもたちの為にご尽力頂きありがとうございます。新年度もどうぞよろしく願いいたします。昨年を振り返ってみますと世界的なウイルスの流行はもちろんのこと、個人的には家族の病や友人との永遠の別れなどもあり何となくモヤモヤと不完全燃焼のまま1年が過ぎてしまったように感じます。そんな時出会った小さな優しい絵本の中に心が晴れる様な言葉がありましたのでご紹介します。

《じぶんの いばしょがなかったら のはらに しきものを ひけばいい》

《せかいが かわってしまったら じぶんも かわって しまえばいい》

《きょういちにち なにもすすめられなかったら 136 おくねんのうちゅうのれきしにおもいをはせればいい》

『あつかったら めげばいい』 (ヨシタケシンスケ著 白泉社)

今年はヨシタケワールドの登場人物を見習って肩の力を抜いて穏やかに、そしていろいろな角度から物事を見定めることができるよう過ごしていきたいと思っております。

津山正樹 委員

新型コロナウイルス感染対策から始まった一年だった。昨今の頃は、不謹慎と思われそうだが、私は剣道の事を危惧していた。剣道は三密(飛沫・接近・掛声)を招く競技として、報道に大きく取り上げられた。これを受け「対人稽古の自粛」の通達の流れ、全国全ての剣道活動が停止になった。仕事以外、毎日、どこかに剣道に出掛けていた自分にとっては、まさに日常生活が一転した。しかし、自分達以上に教え子達が心配だった。臨時休校で学校に行けず、自粛通達で少年団活動もできない。これが続くと子供達は剣道を辞めてしまうのではないか。昨今の少子化による剣道人口の激減に加え、これ以上、子供達が居なくなる事は、剣道の本筋＝日本文化の継承が途絶える。それだけは食い止めたい。一方、コロナ禍をきっかけに、オンライン上で剣道に関する「オンライン稽古」なるものが配信され始め、自分はそこに活路を求めた。参加してみると意外と、分かりやすいものだった。「これだ！」と剣道育成会(親御さんの会)に持ちかけ、子供達に「オンライン稽古」を呼びかけたところ、ほとんどの子供達が参加してくれた。子供達の姿を動画で見たときは、胸が熱くなった。

昨年6月、対人稽古の自粛要請から、2か月ぶりに条件付きで自粛の段階的解除が決定した。対人稽古再開のためのガイドラインに従い、「面マスク」と「マウスシールド」両方の着用の義務付けは、想像以上に辛かったが、教え子達はそれに従い、辞めることなく段階的に再開することができた。この上ない喜びと幸せで、感無量の思いだった。

そして、本年3月。市内すべての小中学校卒業式が、ご家族、来賓を交え、挙行された。この1年、なかなか予定通りに動き出せず、教職員も子供達も我慢と辛抱の1年だったはず。万全のコロナ感染対策は勿論、教職員の徹底的に考えぬかれたさまざまな工夫により、子供達の学びの場を動かし続けた集大成。その場に立ち合えた事は、胸が震える思いであった。

今年は、更に一步。すべては子供達のために、尽力させていただきます。

菅野義則 委員

昨今の頃は、不謹慎と思われそうだが、私は剣道の事を危惧していた。剣道は三密(飛沫・接近・掛声)を招く競技として、報道に大きく取り上げられた。これを受け「対人稽古の自粛」の通達の流れ、全国全ての剣道活動が停止になった。仕事以外、毎日、どこかに剣道に出掛けていた自分にとっては、まさに日常生活が一転した。しかし、自分達以上に教え子達が心配だった。臨時休校で学校に行けず、自粛通達で少年団活動もできない。これが続くと子供達は剣道を辞めてしまうのではないか。昨今の少子化による剣道人口の激減に加え、これ以上、子供達が居なくなる事は、剣道の本筋＝日本文化の継承が途絶える。それだけは食い止めたい。一方、コロナ禍をきっかけに、オンライン上で剣道に関する「オンライン稽古」なるものが配信され始め、自分はそこに活路を求めた。参加してみると意外と、分かりやすいものだった。「これだ！」と剣道育成会(親御さんの会)に持ちかけ、子供達に「オンライン稽古」を呼びかけたところ、ほとんどの子供達が参加してくれた。子供達の姿を動画で見たときは、胸が熱くなった。

昨年6月、対人稽古の自粛要請から、2か月ぶりに条件付きで自粛の段階的解除が決定した。対人稽古再開のためのガイドラインに従い、「面マスク」と「マウスシールド」両方の着用の義務付けは、想像以上に辛かったが、教え子達はそれに従い、辞めることなく段階的に再開することができた。この上ない喜びと幸せで、感無量の思いだった。

そして、本年3月。市内すべての小中学校卒業式が、ご家族、来賓を交え、挙行された。この1年、なかなか予定通りに動き出せず、教職員も子供達も我慢と辛抱の1年だったはず。万全のコロナ感染対策は勿論、教職員の徹底的に考えぬかれたさまざまな工夫により、子供達の学びの場を動かし続けた集大成。その場に立ち合えた事は、胸が震える思いであった。

今年は、更に一步。すべては子供達のために、尽力させていただきます。

教育長通信 ～幼・保・小連携の取り組み～

新型コロナウイルス感染症の影響で、小中学校が臨時休業を実施してから早くも一年を経過しましたが、終息の兆しは未だに見えません。その様な中でも、本市の小中学校は、子どもたちの成長に合わせ、ひとり子どもも取り残さないことを基本に、「子どもたちの学びを止めない教育」を進めてまいりました。そして、今年も4月には、小学校へ新一年生が入学してきますが、子どもたちには一日も早く学校生活に慣れ、「学校が楽しい」、「授業が面白い」と思ってもらえることを願っています。

いま、子どもたちを取り巻く環境は少子化などの影響により、幼児期からの家庭や地域内での子どもたち同士の遊びや学び合いの機会が少なくなっており、小学校入学時に不安をもつ子どもたちが増えていることから、安心して学べる環境づくりをすることが全国的な課題となっています。

このため、本市では2年前から北海道のモデル事業として、幼稚園教諭・保育士と小学校教諭が交流・情報共有の中で、それぞれの幼稚園・保育所・小学校での保育・教育活動を理解し、創意工夫と連携による円滑な幼小接続により、学びの連続性を確保する取組を進めてまいりました。

また、幼稚園・保育所と小学校の子ども同士の交流により、園児は小学生にあこがれや親近感を持つことができ、小学生は幼児とのかかわり方も学ぶことができる機会づくりも少しずつ取り組んでいます。そして、幼児期から小学校に至るまで様々な人たちが関わり連続した学びができていることを、保護者の皆さんに理解し協力していただくことが、子どもたちの健やかな成長に大きな影響を与えるものであると思います。

これらのことを実現するため、今年3月に作成した「富良野市スタートカリキュラムハンドブック」を活用し、幼小連携を充実させていきたいと考えております。これから小学校に入学する子どもたちを中心に、幼児教育・保育と小学校教育の連携、保護者の理解と協力、地域も応援してくれる環境づくりが促進され、小学校生活が楽しく充実したものになることを大いに期待するところであります。

教育委員会会議録（令和3年1月～令和3年3月）議題一覧より抜粋

- 1月25日（月） ○議案第1号 富良野市立学校設置条例の一部改正について
- 議案第2号 富良野市小中学校通学区域規則の一部改正について
- 2月15日（月） ○議案第2号 富良野市教育振興基本計画の策定について
- 3月 4日（木） ○議案第1号 教職員人事の内申について
- 3月22日（月） ○議案第2号 富良野市教育推進計画について
- 報告議案第2号 令和3年度富良野市一般会計当初予算の報告（専決処分）について

定例会は傍聴もできますので、教育委員会に事前にご連絡ください